

【平成28年度 第2回港区史編さん委員会 会議録 要旨】

平成29年1月17日（火）

午後6時30分～7時30分

区役所4階 庁議室

【委員】

出席者：井奥成彦委員長 田中秀司副委員長 岩淵令治委員 唐木富士子委員 小林元子委員
小林靖彦委員 都倉武之委員 野尻三重子委員 渡邊仁久委員 小柳津明委員
堀二三雄委員 浦田幹男委員 渡邊正信委員

欠席者：青木康平委員

【事務局】 総務部総務課

【傍聴者】 なし

次 第

- 1 開会
- 2 新修港区史のインターネット公開について
- 3 港区史の構成（案）について
- 4 平成29年度の区史編さんについて
- 5 その他
- 6 閉会

配布資料

- 資料1 新修港区史のインターネット公開について
資料2 港区史の構成（案）
資料3 平成29年度の港区史編さんについて
資料3別紙 編さん組織体制
（参考） 区史編さんスケジュール（案）

議事要旨

1 開会

2 新修港区史のインターネット公開について

委員：新修港区史のインターネット公開の著作権のことで、その都度対応するという話だが、先行している函館市史や高根沢町史もそういうやり方をしたのか。本で許可されているものでも、インターネット公開をする場合は目的が異なるので、あらためて著者や史料提供者に許可をとる必要があると思う。一回公開して、あと対応するということで、今まで問題がなかったか。また、その場合の対応というのは、基本的には委託事業者が対応するというので区としても良いのか。

それから、区史の英語版もある程度専門の人間が英訳しないと、専門用語とか英訳の問題とかがある。
古文書の解読も誰がやるのか。

事務局：著作権の問題について、システム側には全部権利、責任は持たないという形を同意の上で載せる。
なにを公開するかは載せる側が判断することということになる。

委員：新修港区史を本にするために掲載許可は得ているが、別の媒体で出すという時には改めて掲載申請
を本来取ると思うが、それは事前に対応しなくても良いということか。

事務局：基本的には、編集者や関わった人たちに全部許可を求めるとというのが原則である。

委員：それでは、掲載許可は取るのか。

事務局：可能な限り調査して掲載許可をを求める手続きを取るが、連絡が取れない部分は、区の判断で実行す
る予定。

委員：掲載許可を取ったうえで、取れなかったものはそのまま公開するという意味であることは理解した。

事務局：英訳や翻刻の作業を誰がやるのかということについては、これは全部、載せる側で行う形になる。
ただ、英語の問題については、業者の方で引き受けて、リバイズをお願いするということになる。
そういう形で最終的に責了を取る。翻刻は各地域の代表的な組織である史談会等のメンバーが行う
場合もある。読みの問題等があるので。

委員長：インターネット公開のツールは大変魅力的なので、今後の運用についてはこれから積極的に検討し
ていければと思う。

3 港区史構成（案）について

委員：前回、資料編は期間を変えてでも出した方がよいと申し上げたが、その可能性を残して、今回はこ
こに入っていないということでもいいのか。

事務局：そういうことである。

委員長：特にご意見がないようなので、基本的にはこの形で行い、資料編については今後検討をしていき
たいと思う。

4 平成29年度港区史編さんについて

委員：資料・情報等提供会だが、現在のところ、誰が立案してどういう形で運営していく見込みか。

事務局：調整等は行政のほうで行う。現在のところは広報みななどでお知らせし、各総合支所管内を回り、
情報提供呼びかけるような場の設定を考えている。そこで区史の進捗状況をも含めて説明し、関心
を高めていくという考えである。

委員：監修者や執筆者の方から「こういう情報を集めてほしい」ということではないのか。

事務局：そういうことも要望があれば、可能だと考えている。

委員：了解した。

委員：組織体制のところでは2点ほど伺いたい。1つ目は資料3の別紙の区史編さん部会というのはどういうことをやるのか、もう少し説明をしてほしい。もう1点は、ある程度歴史学をちゃんと勉強した大学院修了者の方をぜひ入れてほしい。自治体史編さんの時には各時代に一人そういう人が入るのが通例。この場合監修者会議の運営というのがそこに当たると思うので、そこに専門的な方をぜひ入れてほしい。1点目は質問で、2点目は意見である。

事務局：1点目については、基本的には、こちらの区史編さん委員会にあげるまでの、行政側の案を検討して作成する役割を果たすもの。

もう1点については、前回の委員会で、ご指摘いただき、現在調整中である。どういう形であれ、対応していきたいと考えている。

5 その他

委員長：スケジュールに関しては確かに、当初は非常にタイトな印象を受けたので、私自身も少し改めていただきたいという提案を申し上げた。これについては今後検討をすることにする。

事務局：次回の委員会については7月に開催したいと考えている。後日、日程調整する。

6 閉会